



徴古館報 第30号 2015年(平成27年)7月発行



佐賀県重要文化財 蒸気船雛形(外輪船)

# 「鍋島家の新しい宝 — 徴古館新収蔵品初公開」展



徴古館は佐賀藩主・侯爵鍋島家伝来品を展示する歴史博物館として平成10年に再開しました。以来17年間で様々な方からご寄贈頂いた資料の一部を、初めてまとめてお披露目する企画展「鍋島家の新しい宝 — 徴古館新収蔵品初公開展」を開催しました。貴重な資料を徴古館にご

寄贈くださった方々に感謝申し上げます。

立皇太子御式台切丸伝進之図錦絵：大園弘氏（佐賀市）／色絵山水文角形香炉ほか：平尾正子氏（佐賀市）／鍋島直大色紙：飯田喜哉氏（神崎市）／西村家旧蔵資料：西村慶子氏（東京都）／箱雛：檜枝千代子氏（神崎市）／城原鍋島家日記：江頭廣宣氏（佐賀市）／鍋島直茂・勝茂書状：江島正治氏（埼玉県）／図書：武石万里子氏（東京都）／陶磁器：柴田祐子氏（佐賀市）／雛人形・雛道具：大木博文氏（長崎市）／石井家関係資料：田中ヒサ子氏（有田町）／鍋島宗教書状：佐藤憲一氏（福山市）／鍋島直興書：原口稔氏（佐賀市）／雛人形・雛道具：池田ハルミ氏（北九州市）／鍋島直映筆「松水」扁額：森永雄平氏（川崎市）／去風流関係資料：松本操氏（佐賀市）／森永家関係資料：森永雄平氏（川崎市）／閑叟公銅像絵はがきほか：木村博子氏（小城市）／染付菊御紋付鳳凰文深鉢：中原正彦氏（佐賀市）／琵琶 銘宮島・鍋島直正書ほか：鍋島美茂氏（東京都）／内裏雛・鍋島邦子関係資料：鍋島久美子氏（東京都）／鍋島直映筆富士山図ほか：鍋島茂清氏（佐賀市）／松平恆雄書：江頭勝美氏（佐賀市）／曾子・子貢・子路図（鍋島綱茂筆）ほか：大野智子氏（佐賀市）／寿老人・松鶴・竹鶴図（鍋島直之筆）ほか：野方文雄氏（姫路市）／古川源太郎夫妻写真：田中妙子氏（佐賀市）／鍋島栄子所用バースル・ドレスほか：飯島郁子氏（千葉県）／南フランス風景（高木背水筆）：田中壽一氏（東京都）／御大典奉祝佐賀県勸業共進会会場図：大園隆二郎氏（佐賀市）

## 南フランス風景 高木背水筆

佐賀出身の高木背水は、永田町鍋島邸で玄関番書生を勤め、御一家の肖像画も数多く手がけた洋画家。本品は渡欧時に滞在した南フランスの風景を明るい色調で仕上げています。寄贈を機に修復を経て約30年ぶりの公開となりました。



## バースル・ドレス 鍋島栄子所用

後腰を膨らませるバースルスไตล์は鹿鳴館時代に多く見られるドレス。11代鍋島直大公とローマで結婚し、帰国後は「鹿鳴館の華」と謳われ、明治の社交界をリードした栄子夫人の所用品で、鍋島邸に出仕していた岡部オトミが拝領したもの。レースチュールの繊細な織り、全体をまとめる柔らかく淡い色使いなどが優美さを漂わせています。



## 琵琶 銘宮島 鍋島栄子所用

11代鍋島直大公は明治政府で雅楽などをつかさどる宮内省式部職の長官を永年勤め、御一家の方々も雅楽を嗜まれました。なかでも栄子夫人は、箏や琵琶を演奏したことが古写真や記録から知られていましたが、楽器の現存は確認されていませんでした。その琵琶を平成25年度にご寄贈いただき本展で初公開しました。



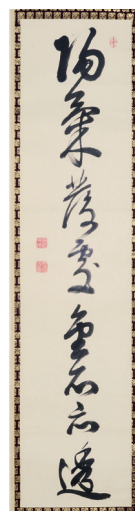
## 曾子・子貢・子路図 3代鍋島綱茂筆

作者は歴代藩主のうち屈指の画人である3代鍋島綱茂公。儒教の人物画や仏画の作例が多い綱茂公が孔子の弟子を描いた作例は本品のみ。余技としての大名芸の域を超越した筆運びに確かな技量がうかがえます。



## 鍋島直正書「陽気発処金石亦透」

往時から書の達人として世に聞こえていた10代藩主鍋島直正公の書。世継ぎ時代の作品も数多く遺されていますが、本品は17歳で藩主に就任した2年後の作品とみられます。20歳頃の作品はあまり知られておらず貴重。「陽気発する処、金石亦透る」とは、精神を集中すれば、どんな困難にも打ち克つことができる、の意。藩政改革が軌道に乗る前の時期にあたりますが、重みのある確かな運筆とあいまって藩主就任3年目の心意気を感じさせます。箱書きから、終生側近として仕えた古川松根が拝領したことがわかります。





# 「蒸気軍艦を入手せよ!! —江戸後期の長崎警備」展



徴古館では、佐賀藩の最重要任務だった長崎警備を辿る第72回展「蒸気軍艦を入手せよ!! —江戸後期の長崎警備」を開催しています(平成27年7月6日～9月12日)。「佐賀藩長崎警備のはじまり」展(平成24年度)の続編として、主に10代藩主鍋島直正時代における変革過程をご紹介します。

18世紀は長崎港への外国船の来航は限られていましたが、寛政10年(1798)に佐賀・福岡両藩によって大砲が新たに鑄造され、さらに文化年間のレザノフ来航やフェートン号事件を受け、江戸時代前期に築造された7カ所御台場の大規模な大砲刷新が行われました。鍋島直正が10代藩主に就任したのは、その20年ほど後のことです。

「嚴重の大御台場」 — 両島台場(伊王島・神ノ島)の築造  
アヘン戦争の直後の天保15年(1844)、開国を勧告するオランダ国王の国書をもたらしした使節船パレンバン号に直正は志願して乗船し、自らの目で西洋軍艦を視察します。その後、直正は老中・阿部正弘に対し、文化年間の大砲増強では不十分として、「嚴重の大御台場御取り建てられ、大貫目の大銃、今又百挺程も相備え置かれたし」と進言します。「防禦の要地、全く外目」にありとして、7カ所御台場よりさらに沖側の島々に大型大砲を設置するよう求めたのです。その島が佐賀藩領の伊王島・神ノ島でした。この頃の心境を表した直正の漢詩には、「巨砲を鑄し万里を威せんと欲す、未だ能く大船千艘を製せず」「(野人亭稿)」と、現実を見つめつつ理想を求める意志がうかがわれます。結局幕府の賛同は得られませんでした。嘉永3年から藩独力で事業を推進します。これが長崎警備改革の柱のひとつである両島台場(伊王島と神ノ島の台場)です。

## 「なおこの上も備えてん」 — 蒸気船を入手せよ!!

嘉永7年(1854)、ロシア使節プチャーチンの長崎来航を機に両島台場を幕府から褒賞された直正は、「思ふばかりなおこの上も備てん かくて止むべき心ならめや」と今後の警備にかかる決意を表現しています。想いの限り、力の限りのさらなる警備拡充を表明した直正はこの頃から蒸気船入手に向けて始動しました。化学や科学技術进行研究する精煉方では蒸気機関の研究が安政2年(1855)から始まります。そこで製作された蒸気車雛形・蒸気船雛形(外輪船=表紙写真)・蒸気船雛形(スクリー船)の3点の蒸気機関雛形が現存しており、徴古館では本展で初めて一堂に公開しています。

その一方で直正はオランダから蒸気船を購入する手筈を



蒸気車雛形  
公益財団法人鍋島報効会 所蔵

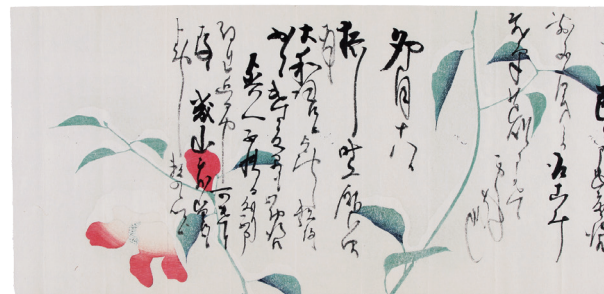


蒸気船雛形(スクリー船)  
公益財団法人鍋島報効会 所蔵

進めます。安政2年に「極密急内用」として側近の徳永傳之助に宛てた直筆の書簡では、「来年に蒸気船をもたす約束を取り付けようとしたところ、意外にもオランダ人からすぐに良い返事をもらえた。また幕府の蒸気船(観光丸)より良いものをと云ったところ、これも即答だった」と交渉の手応えを伝えています。また対幕府については、「蒸気船入手の願書をもし突き返されても、押し返してでも提出するように」と藩士に強い態度を求めています。本展のタイトル「蒸気軍艦を入手せよ!!」は、こうした直正の想いや指示を表したものです。

## 「来年は江戸まで乗り込み候はん」 — 蒸気船の運用

安政5年、直正は念願の蒸気船をオランダから入手し電流丸と名づけました。長女貞姫に宛てた書簡で直正はこの船を「爺(父)の蒸気船」と表現し、さらに幕府保有の観光丸を預けられた万延元年(1860)には「来年は江戸まで乗り込み候はん」と意気込むなど、蒸気船入手の素直な喜びや保有の自信を表しています。



長女貞姫宛て鍋島直正書簡  
(万延元年)4月18日付 縦17.3cm 横84.8cm 公益財団法人鍋島報効会 所蔵  
「十三日夕より電流丸に乗り込み、翌日九ツ時(正午頃)長崎着、十五日八ツ時(午後2時頃、長崎を)出帆、同十六日朝六ツ時半(午前7時頃、佐賀の)今津に着船致し参らせ候」など、長崎まで1日も要しない速度を誇るかのように出発と到着の時刻を克明に書き綴る。

安政2年、直正は長崎海軍伝習所に数多くの藩士を送り込み、同5年には藩内で海軍養成のための御船手稽古所を設立します。のちに修履場なども併設したこの場所は三重津海軍所として佐賀藩艦隊の根拠地となり、慶応元年(1865)に日本初の実用蒸気船「凌風丸」の建造にも成功します。

明治4年(1871)に東京で没した直正の遺髪が、横浜から蒸気船で到着したのも三重津でした。直正の生前に側近古川松根が「神の如くは言い継ぐらし」と予言したとおり、最初は松原神社、そして昭和8年(1933)には新たに創建された佐嘉神社の御祭神として、長崎警備や蒸気船入手・建造の取り組みは偉業として語り継がれています。

## 研究助成事業

公益財団法人鍋島報効会では、郷土佐賀の研究を奨励し、その成果を地域に還元することを目的に、研究費の助成を行っています。

### 【4月3日】 第15回研究助成授与式

平成27年度授与者が決定し、徴古館において授与式が行われました。授与者・研究テーマは以下の通りです。



上赤 博文(佐賀植物友の会/佐賀自然史研究会)「市民による佐賀県内のタンポポ調査―身近な植物タンポポで分かる地域の環境」／山田 淳平(京都大学大学院 文学研究科非常勤講師)「佐賀藩における雅楽文化の展開」／金 羅榮(京都大学大学院 文学研究科博士課程後期)「佐賀藩における藩主室の葬送儀礼に関する基礎的考察―藩主室の実家との関係を中心に」／宮崎 博司(佐賀県文化財課)「絵図からみた唐津城下町の変遷」／相川 晶彦(介護福祉士)「佐賀県の農村舞台」

### 【5月30日】 第14回研究助成報告会

昨年度に助成を受けた5名による第14回報告会を徴古館2階で開催しました。66名の方にご参加いただき、発表後も活発な質問や意見交換が行われ、実りのある報告会になりました。今回報告された平成26年度の研究成果と平成25年度分をまとめた研究報告書は、第7号として今年秋に刊行予定です。

## 今年度からの取り組み

### 徴古館Facebookページ開設

このたび徴古館ではFacebookページを開設しました。既存のホームページやメールマガジンとあわせて、企画展やイベントの情報を発信していきますので、ぜひ「いいね!」・「シェア」してただけましたら幸いです。

<https://www.facebook.com/nabeshima.chokokan>

### 新発売! 「年間パスカード」

通常1,500円のところ、1,000円で企画展5回を観覧できるお得な「年間パスカード」を発売いたしました。有効期間は、平成27年4月～平成28年3月までの1年間となっており、1枚のカードをご友人やご家族と共有してお使いいただくこともできます。



平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

## 古地図で佐賀城下の魅力再発見!

当財団所蔵の7期分の佐賀城下絵図を中心とし、関連資料の活用により佐賀城下に光を当てる標記事業は7年目を迎えました。今年度は、藩士名簿資料の調査や入力等の基礎的作業(人名データベース)と、城下のまち歩きを通して歴史を再認識し、今後のまちづくりに繋げることを目的とした佐賀城下探訪会を行っています。

### 佐賀城下探訪会半日ショートコース

平成21年度から行っている佐賀城下探訪会は、朝から夕方までの終日歩く形で行ってきました。今回開催した「半日ショートコース」は、長距離のため参加が難しいなどのお声を受けて新設したもので、過去のコースを短く設定し直して探訪しました。4月22日(水)と26日(日)は「向陽軒跡・万部島と春の東堀跡コース」、5月27日(水)と31日(日)は「西堀端の古寺社と初夏の楠風コース」として、計4回行いました。最後は徴古館で豪華お弁当を戴き、従来の探訪会よりも少人数でコンパクトに楽しめた歴史散策でした。今年度のショートコースは既に終了しましたが、是非また参加したいとのご好評を数多くいただきました。



第1回「向陽軒跡・万部島と春の東堀跡コース」(写真:鯉の門)



第3回「西堀端の古寺社と初夏の楠風コース」(写真:興賢神社)

### 今後の探訪会スケジュール

平成27年度の佐賀城下探訪会 終日レギュラーコースは下記の日程で行います。

|                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 第1回 9月6日(日)<br>「神代(国見)・鹿島」  | 第3回 11月15日(日)<br>「長崎街道①」 |
| 第2回 10月18日(日)<br>「久保泉(川久保)」 | 第4回 12月6日(日)<br>「長崎街道②」  |

徴古館報 第30号 2015年(H27)7月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX (0952) 23-4200 MAIL [info@nabeshima.or.jp](mailto:info@nabeshima.or.jp)

URL <http://www.nabeshima.or.jp>